

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	若者対象コース		
事業名	企業実習による実線型ネットショップ店長育成と就職・起業の支援		
法人名	学校法人麻生塾		
学校名	麻生情報ビジネス専門学校		
代表者	理事長 麻生 泰	担当者 連絡先	清崎昭紀 092-415-2289
1. 事業の目的			
<p>今後成長が見込まれるネットショップビジネスは就業・起業の場として期待される。本事業では、これまで培ってきたネットショップ人材育成のノウハウ・プログラムを基礎に、ネットショップに取り組んでいる企業との連携による実践型の実習をおこなうことで、ネットショップ事業をおこなう（おこなっている）企業への就職や、独立開業の支援をおこなうものである。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>本カリキュラムでは、座学としてヒューマンスキル、ネットショップビジネススキル、また、実習としてネットショップの構築および運営スキル、企業実習、ビジネスモデル討議に重点を置いた。今回の事業活動の特徴は、単に講座を実施するだけではなく、『講座実施→企業実習→ビジネスモデル討議』といった育成過程を経験させることが独自のであり、この人材育成手法により、単に知識や技術を教えてもらう受身型の人材育成から、受講生自身が発見をして考えていく実践型の人材育成を目指した。</p>			
<p>●開設講座数 : 16講座          ●総授業時間数 : 150時間          ●開設期間 : 1月13日～2月19日          (内訳)</p>			
<p>&lt;ヒューマンスキル&gt;</p>			
講座名	開催日	時間数	受講者数
社会のニーズに合う人材育成講座	1月13日	3時間	6名
顧客の心をつかむ文章力講座	1月13日	3時間	7名
うまくいく時間管理術講座	1月14日	3時間	6名
自己分析と自己改革講座	1月14日	3時間	6名
ビジネス集中力をつけるセルフマネジメント講座	1月15日	3時間	6名

見やすいショップ作りの色彩心理学講座	1月15日	3時間	8名
＜ネットショップビジネススキル＞			
講座名	開催日	時間数	受講者数
ネットビジネス講座	1月20日	3時間	7名
ネットビジネス関連業法講座	1月20日	3時間	9名
成功するネットビジネスの企画と運営	1月21日	3時間	6名
大川家具におけるネットショップ運用の事例紹介 (2社)	1月21日	1.5時間	8名
ネットショップ運営ここだけの話(パネルディスカッション)	1月21日	1.5時間	8名
福岡県のネットショップ支援(福岡よかもん市場)	1月22日	3時間	9名
携帯ビジネスの現状と今後について	1月22日	3時間	9名
＜ネットショップの構築および運営スキル＞			
講座名	開催日	時間数	受講者数
レンタルサーバによるEC-CUBE構築と運営	1月25日	30時間	9名
	1月29日 2月1日		
飯塚商店街のネットショップ構築と運営実践	2月12日	81時間	9名
	2月15日 2月19日		
報告会及び事業評価	2月12日	3時間	8名
②受講者の募集方法(手法・期間・効果)			
受講者募集に当たっては、主に下記の方法を用いて行った。			
1. 委員会Webサイトでの告知(12月1日～) (講座募集内容の掲載および応募フォームの設置)			
2. 各種ポータルサイトへの登録(12月18日～)			
・福岡タウンネット( <a href="http://www.every-mail.com/fukuoka/">http://www.every-mail.com/fukuoka/</a> )			
・セミナーポータル情報サイト in 福岡( <a href="http://f-seminar.jugem.jp/">http://f-seminar.jugem.jp/</a> )			
・ふくおかWeb( <a href="http://www.fukuoka.com/">http://www.fukuoka.com/</a> )			
・google( <a href="http://www.google.co.jp/">http://www.google.co.jp/</a> )			
・goo( <a href="http://www.goo.ne.jp/">http://www.goo.ne.jp/</a> )			
3. 福岡県下ハローワークへのチラシ設置(12月14日～)			

#### 4. 各種就職関連施設へのチラシ設置（12月14日～）

- ・福岡県若年者しごとサポートセンター
- ・福岡県若者サポートステーション
- ・若者ワークプラザ北九州

また、各募集方法の効果の有無であるが、委員会 Web サイトの応募フォームからの申し込みが15名中10名であったことから、Web サイトでの告知は効果があったと考えられる。

また、講座を知ったきっかけであるが、

- ・各種ポータルサイト 5人
- ・ハローワーク 4人
- ・若者サポートステーションおよび若者ワークプラザ 2人
- ・昨年度からの受講 3人
- ・知人からの紹介 1人

となっており、いずれの募集方法も、効果が出ている。

また、応募状況であるが、定員20人に対し、15人の応募があった。

#### ③受講者の状況

応募者15人の内訳は下記の通りである。

性別：男性8人、女性7人

年齢層：20代 5人／30代 9人／40代 1人

いずれも、定職についておらず、アルバイトなどで生活をしている状況であった。

また、応募者15人のうち、3人は1回も講座に出席せず、12人が実際に講座に参加した。

#### ④受講者の意識調査等

受講者満足度は下記のとおりであり、大変良好な回答を得た。

各スキルにおいて、「大変満足」「満足」「普通」「不満」「大変不満」の5段階評価を行った。結果は以下のとおりとなった。

<ヒューマンスキル>

大変満足：4人（45%）

満足：2人（22%）

普通：2人（22%）

不満：1人（11%）

大変不満：0人（0%）

自由回答

- ・仕事をする上で大変参考になる講座が多かった。
- ・時間が少なく、最後が駆け足になったのが残念だった。

- ・もっと時間をとってゆっくり講座を聞いたかった。

#### <ネットショップビジネススキル>

大変満足：7人（64%）

満足：3人（27%）

普通：1人（9%）

不満：0人（0%）

大変不満：0人（0%）

#### 自由回答

- ・普段経験できない事を聞くことが出来、非常に内容が濃かった。
- ・もっとゆっくりと講座を受講できたら良かった。
- ・実際に運営しているネットショップの中身に触れることができ良かった。

#### <ネットショップの構築および運営スキル>

大変満足：8人（89%）

満足：1人（11%）

普通：0人（0%）

不満：0人（0%）

大変不満：0人（0%）

#### 自由回答

- ・非常に貴重な技術を身につけることができた。
- ・実際にネットショップを立ち上げるために何をすれば良いのかが分かった。今後ネットショップをオープンする際に役立つと思う。
- ・Webサイト作成の基本的なスキルからゆっくり学びたかった。
- ・もっと受講期間が長ければ良かった。

#### ⑤受講後の状況（修了者数・就職率）

受講者12人中、6人が規定の出席時間数（80%）に達したため、終了証（として学校教育法に基づく履修証明制度の対象となる終了証明証）を交付した。

修了者の全てが就職活動希望者であり、1人が実際に個人のネットショップを開始し、2名が個人のネットショップの立ち上げ準備中である。残りの9人が現在就職活動中である。

#### 3. 事業の評価に関する項目

##### ①当初目的の達成状況

（1）事業実施協力機関、委員、実習の連携をおこなった飯塚商店街等のご協力、ご支援

により、事業が推移し、充実した教育プログラムの構築と実習成果を出すことができた。

(2) 当初計画に応じた教育プログラムの開発ができた。

ネットビジネスモデルの紹介を中心に運営に関する知識や基礎知識の習得、起業実習を前提とした技術訓練を実施した。これらの基礎的な技術習得は事業実施校におけるプログラム改善にも応用することを考えている。

企業実習においては、飯塚商店街の協力により、実際店舗の運営するネットショップをもとに、グループワーク形式により構造・商品の研究をおこない、独自のネットショップを作成し成果発表をおこない、委員による講評・指導等を得た。以上のプログラムについて150時間の講座を達成した。また、ワークショップによる実習活動を通じて、受講生より具体的なネットショップ起業の提案があり、実施委員によるアドバイス（技術面、マーケティング、流通方法等）をとおり、具体的な起業にいたる事例が出現したことは特筆に価する。

## ②事業の成果及び改善点

本事業の成果は、下記の教育プログラムに示される。

- (1) 実戦型ネットショップビジネステキスト
- (2) ネットビジネス企業実習事前学習ガイド
- (3) 企業実習とビジネスモデル成果集

改善点では、商店街との連絡調整に時間がかかり、実店舗の経営者の意見、ネットショップ設置の経緯等を充分にお聞きしてから対応する時間が少なくなった。

## ③次年度以降における課題・展開

### <次年度以降における課題>

実戦型の訓練ということで、実在のネットビジネス（ショップ）との連携が受講生の理解・意欲向上に資するものが判明したが、ショップ側に多くの時間を割いてもらうことになる。そのための十分な理解と協力を得るための仕組みが必要と思われる。

### <次年度以降における展開>

事業にて取り組んだプログラムは、自校内のWEBビジネス系のカリキュラムに活用される予定である。また、本事業に参加した他校の授業内容への反映、本校で受託している委託訓練のプログラムの一部として展開を図るものである。

## ④成果の普及

本事業の終了に合わせて成果発表会を開催し、広く事業活動の内容を告知・普及する。また、活動期間中を通じて専用のホームページを作成し、その活動内容を発信する。